

北海道浮魚ニュース

平成13(2001)年度 12号 (通巻 No.105)

2001年8月9日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

平成13年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報発表される

8月6～7日に東北区水産研究所(塩釜市)において、平成13年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報会議が開催され、予報文が発表されましたのでお知らせします。

なお、水産総合研究センター東北区水産研究所のホームページに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

水産総合研究センター東北区水産研究所 URL : <http://www.myg.affrc.go.jp>

【漁況予報】(図1参照)

予測期間 : 2001年8月中旬～12月

予測海域 : 北西太平洋(道東沖から常磐沖)

予測漁業 : サンマ棒受網

来遊量

- ・来遊量は昨年を上回る。

漁期・漁場

- ・大型船の出漁後の漁場は、色丹島周辺に形成される。
- ・漁期の進行に伴い漁場は沿岸域の冷水に沿って道東沖に移動する。
- ・道東沖の漁場は平年より早めに形成されるが、三陸沖への漁場の南下は平年並み。

魚体

- ・漁期当初は中型魚主体で推移する。
- ・その後、沖合域から個体数の半数を大型魚が占める魚群が漁場に参加する。
- ・漁期後半は、中小型魚の割合が急激に増加する。

大型魚 : 29～32cm, 中型魚 : 24～29cm, 小型魚 : 20～24cm, ジャミ : 20cm以下。

沖合域 : 東経147度以東, 沿岸域 : 147度以西。

解説

来遊量

北上期調査(6月～7月上旬)における流し網一反あたりの採集尾数は9.9個体で、昨年の結果(2.3個体)を大きく上回っており、サンマが採集された調査点も沿岸から沖合まで、広範囲であった。また、東北区水産研究所八戸支所が行った中層トロールの結果でも、多数のサンマが広範囲で漁獲された。漁期前一斉調査(7月中旬以降)で行われた流し網および中層トロールの漁獲試験においてもサンマは多数採集され、流し網一反あたりの採集個体数は15.4個体(2000年は10.4個体)と過去5年で最高であった。以上の結果から、調査実施時期に沿岸および沖合を北上したサンマ資源は昨年より大きかったと考えられる。

また、7月10日から解禁になった小型船の水揚げ量は7月末には2,000トンを超え、昨年の約10倍となっている。仔稚魚を対象とした加入量調査による季節ごとの結果では、2000年秋期(9月～12月)における稚魚採集数が平年をやや下回ったものの、2001年冬季(1月～3月)、2001年春季(4月～6月)は高い値を示しており、安定した再生産が続いたと考えられた。

漁期・漁場

道東沖の水温および漁場の沖合化の指数となる沖合における親潮前線の位置が平年並みであることから、漁場は比較的沿岸寄りに形成されると考えられる。道東沖は親潮水に覆われるため、この海域への漁場の移動は平年より早いと考えられる。魚群の南下を阻む暖水塊や津軽暖流の強い張り出しがないことから、三陸沖への魚群の南下は平年並みであろう。

魚体

8月上旬現在、小型棒受網船は中型魚を主体に漁獲しているが、これらは沿岸を北上した大型魚と中型魚と考えられる。

中型船と大型船の出漁後は漁場が沖合に広がることおよび沖合からの魚群の来遊により、漁期前調査において沖合で確認された魚群が漁獲対象になると考えられる。北側の低水温域(沖合15未満)で確認された魚群が先に漁場に加わると考えられるが、この魚群では大型魚の個体数の割合は約50%であった。

漁期の進行に伴い、調査時に南側海域(沖合15以上)に分布していた小型魚およびジャミ主体の魚群も加入してくると考えられるが、この魚群の大型魚および中型魚が占める比率は非常に低いため、漁期後半以降は来遊資源の体長は急速に小さくなると考えられる。

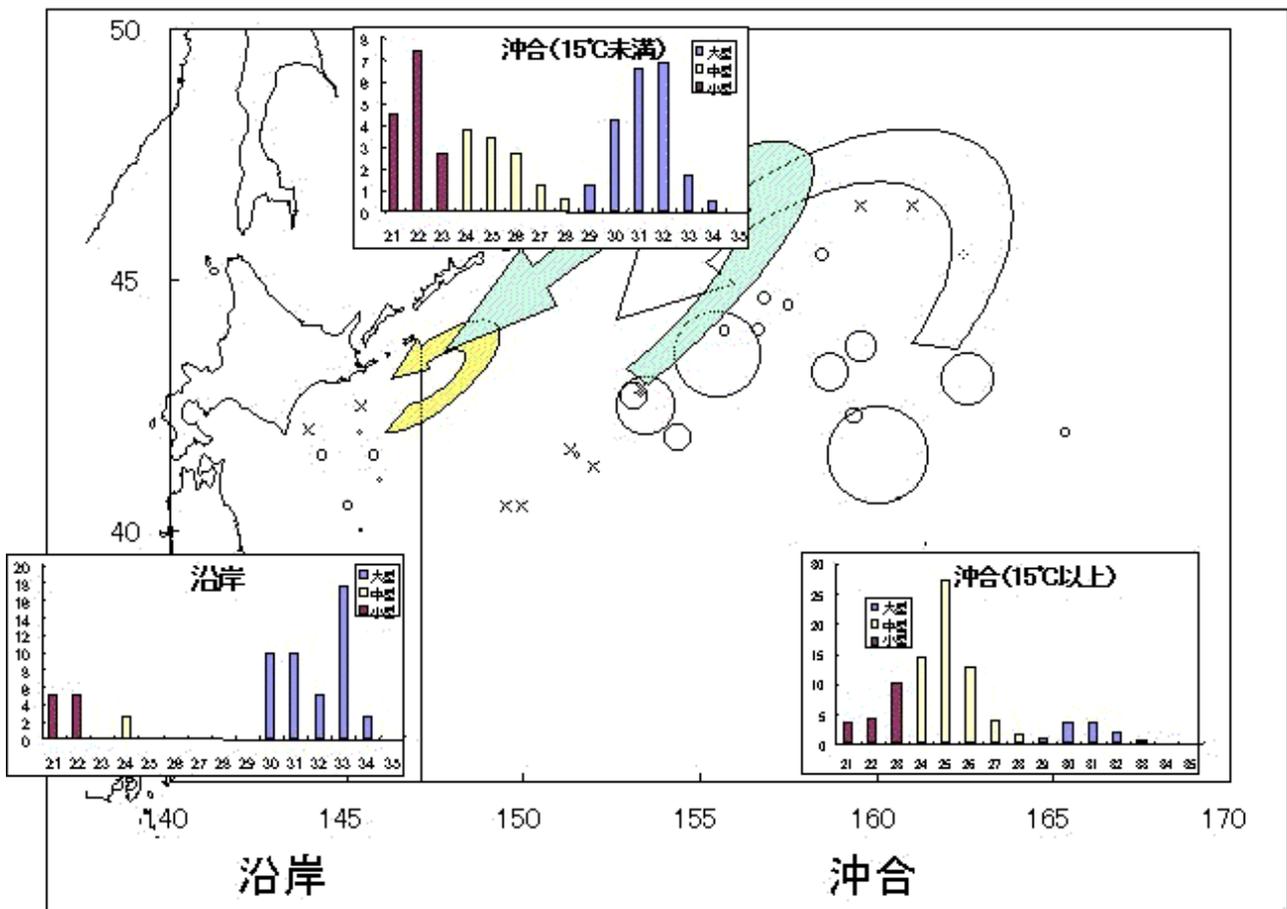


図1 2001年サンマ漁況予報の模式図。

矢印は回遊経路を示すもので、太さは来遊資源量と関係はない。

体長頻度分布のグラフは、縦軸が割合(%), 横軸が肉体長(cm)を示す。

頻度分布の計算はすべての採集個体について行ったが、21cm以上の個体のみを表示した。

【海況予報】（図2参照）

予測期間 2001年9月～11月

予測海域 北西太平洋

黒潮

- ・近海の黒潮の北限位置は、平年並から北偏（ $37^{\circ}\text{N} \sim 38^{\circ}\text{N}$ ）で推移する。

黒潮系暖水

- ・黒潮系暖水の北への張り出しは、沖合を中心に平年より北寄りに推移する。
- ・近海では 40°N を越える。
- ・沖合では $148^{\circ}\text{E} \sim 150^{\circ}\text{E}$ で $40^{\circ}30'\text{N}$ を越える。

暖水塊

- ・釧路南東沖の暖水塊は北東へ移動する。
- ・鮫角沖の暖水塊は北東へ移動する。
- ・金華山沖合の暖水塊は、西へ移動する。

親潮

- ・親潮第1分枝の張り出しは、平年並～やや強勢（ $39^{\circ}30'\text{N}$ 以北）で推移する。
- ・親潮第2分枝の張り出しは、平年並（ 39°N 付近まで）で推移する。
- ・三陸南部から常磐北部近海では、一時的に冷水域の影響を受ける。

津軽暖流

- ・津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、平年並（ 143°E 付近）である。

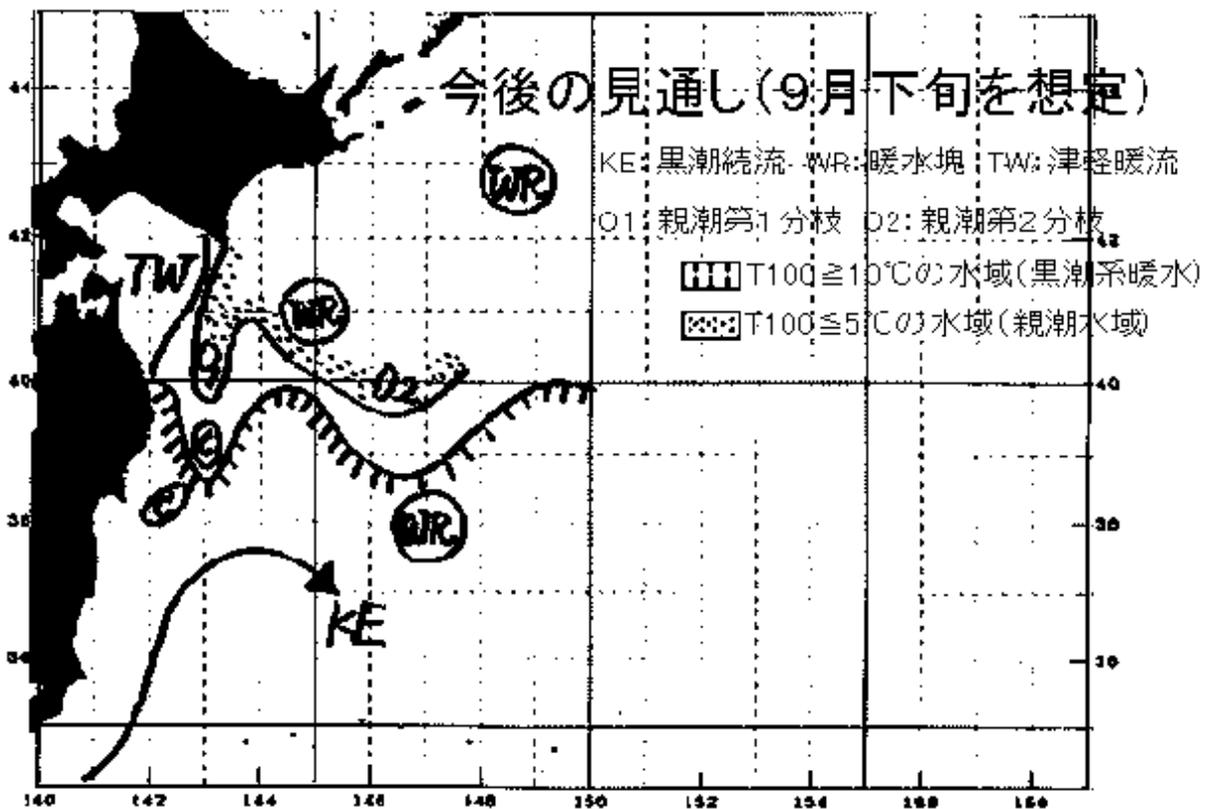


図2 海況の見通し(9月下旬を想定)

(文責: 釧路水産試験場 資源管理部 直通電話 0154-23-6222)